



“よねやま”から広がる新しい世界 ⑤

私を変えた米山体験



宗像RC
(第2700地区 福岡県)

カウンセラー
安増 惇夫 さん

とりあえず引き受けたカウンセラー

私が1986年に創立会員として入会した宗像ロータリークラブ(RC)は、宗像が古来、唐や宋との大陸貿易の要衝として栄え、また地域に大学があることを踏まえ、当初から国際交流と青少年育成に重点を置いています。その一環として、将来の教育者を目指す福岡教育大学の留学生たちに、日本を好きになってもらおうと、市内在住の外国人留学生全員を対象に「サービスパスポート」を発行。これは、会員の店や病院、会社のサービスを優遇して受けられるもので、今も毎年度配布しています。

こうしたクラブの仕事や組織づくりに追われ、刺激を楽しんでいましたが、数年もすると例会は単調でつまらなくなり、「そろそろ辞め時かな」と考えていた矢先、会長から「安増さん、米山奨学生のカウンセラーをしてみらんね？」と打診されました。私は即座に断りましたが、「こんな子と酒でも飲んだら楽しいんやない？」と書類を見せられ、暇つぶしのような気持ちで引き受けました。



当時の安増氏と劉さん(中央の二人)

ここから私と米山の関係は始まったのです。

“化ける”を手伝い、自分も“化ける”

そもそも私は留学生に偏見を持っていました。歓楽街には、留学生を名乗る外国人が多く働いており、彼らが勉強をしていないことは一目瞭然でした。しかし、劉平^{リュウピン}さんやその友人たちと関わるうちに、彼らの真面目に学ぶ姿が私の見方を変えました。劉さんは困っている同胞のためにと、裁判所での法廷通訳のボランティアを始めました。誰にでもできる仕事ではありません。基礎訓練を受け、専門外なのに一生懸命勉強に打ち込んでいました。「この子は化けたな」と感じました。「留学生なんてどうせ……」という私の偏見は、完全に消えていました。

以来、地区米山委員と同委員長、米山記念奨学会理事など、長年米山に関わっていますが、原点となるのは、やはりカウンセラーの体験です。それ以前も外国人留学生との交流はありましたが、「金のない留学生を支援する」という程度の意識が、「人を育てる」という認識に変わったのは、米山カウンセラーをしてからです。人を育てるといのは、自分が上の立場にいる、ということではありません。“化けるのを手伝う”という意味です。そして、私たち自身も“化ける”ことができるのです。

なぜ今、米山なのか？

昨今、事業に対する疑問の声が聞こえてきます。なぜ米山なのか。反日と言われる国からの留学生になぜ奨学金をあげるのか。それは、人を育てるからです。世界に平和の種を蒔いてきたこの事業の種が、ようやく開花しようとしていると実感しています。皆さん、米山カウンセラーになってみませんか。ロータリアンにとって、日本にとって、本当に大切な事業です。留学生との交流、本音での語り合い、目に見える国際奉仕の最前線です。これほど魅力にあふれた、面白いチャンスはめったにありません。最後に、地区を代表し米山に関わる私を応援してくれる宗像RCの皆さんに、心から感謝をささげます。

宗像RCの安増惇夫氏は以前、留学生の支援に積極的ではありませんでした。ところが、“とりあえず”で引き受けた米山カウンセラーの体験がその認識を変えることになり、現在は米山記念奨学会理事や全地区の米山委員長への研修で講師を務めるほど、米山に深く関わっています。安増氏の心を変えるきっかけとなった元奨学生・劉平^{リュウピン}さんも、ロータリアンとの出会いから心に変化が生まれて……。今回は、米山体験が変える「心」のストーリーを紹介します。



米山学友
リュウピン
劉平さん

出身：中国
奨学期間：1997 - 98
学校名：福岡教育大学大学院

ロータリアンの背中を追って

ロータリアンからおいしいものをごちそうになった、こんな所に連れていってもらった……。多くの米山奨学生はこうしたうれしい体験をしていると思います。いい思いができた幸運ではなく、私たち留学生のために、できる限りのことをしたいという皆さんの気持ちは何よりうれしいのです。私も約20年前、寒い冬にストーブやコートを差し入れてもらったり、人生に迷った時に的確なアドバイスをいただいたり、数え切れないほどのご恩をいただきました。

特にカウンセラーの安増さんは、車のドアまで開けてくださるような、まるで映画の英国紳士のような方でした。ロータリアンと接するうちに、自分ももっと人間を磨き、成長し、自分の生活や仕事だけを考えるのではなく、皆さんのように社会に還元できる人間になりたいと強く思うようになりました。

日中における「期待の窓」に

私は現在、日系企業に勤め、日中間を往復する日々ですが、奨学生時代から地方裁判所の法廷通訳、教育委員会派遣の通訳教師、国際交流協会のボランティアなどを続けています。今日の日中関係には心を痛めています。この困難を乗り越えるために、われわれ留学経験者一人ひとりが両国の実情、異なる文化などの情報を発信し、未来への懸け橋となるべきです。

最近、自分の体験や日本の風景、食べ物などの画像や動画をインターネット上で発信したところ、中国の親戚や友人から「こんな日本は初めて！」と絶賛され、大きな反響がありました。こんな小さなことでも、両国間の壁に穴を開け、「期待の窓」になるのだと思いました。一人ひとりが小さなことでも実践していけば、いつか壁はなくなると信じています。皆さんが私たちに注いでくださった気持ちを若い世代に引き継ぎたい。そんな気持ちで、これからも頑張っていきます。

ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業に関するお問い合わせ・ご意見、または“よねやまだより”についてのご意見を、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会まで、ぜひお寄せください。

Tel. 03-3434-8681 Fax. 03-3578-8281

Eメール：mail@rotary-yoneyama.or.jp



タイ米山学友会が児童養護施設で奉仕活動

タイ米山学友会が12月21日、バンコク郊外の児童養護施設を訪問して奉仕活動を行いました。学友たちは食材を持ち込んで子どもたちにランチを提供したほか、メンバーからの寄付や勤務先企業からの協賛を得て集めた絵本やおもちゃ、お菓子、シャンプーなどを一人ひとりに手渡しました。同学友会幹事のインタラチット・ヌンヌットさん(2006-07/横浜鶴見北RC)は「子どもたちが昼食をおいしそうに食べるのを見て、うれしかった。これからも自分たちにできる活動を考え、続けていきたい」と語りました。昨年は新たに大学生2人に奨学金の支給を始めるなど、創立3周年を迎えたタイ米山学友会は、着実に活動の幅を広げています。



タイの学友が多くの子どもたちに贈り物